

平成23年2月21日
学識者検討委員会用資料①

大森駅周辺地区 グランドデザイン (原案)

大田区

大森駅周辺地区グランドデザインの策定にあたって

大田区がめざすべき20年後の将来像と区政運営の方針を示す「大田区基本構想」が、平成20年10月、区議会において議決されました。そして平成21年3月には、この基本構想を実現するため、大田区10か年基本計画「おおた未来プラン10年」を策定いたしました。この「おおた未来プラン10年」の中で、にぎわいと活力を生み出す区を中心拠点として、大森駅周辺地区を、蒲田、羽田空港・臨海部とともに位置付け、多彩な魅力と個性あふれるまちづくりに取り組むことといたしました。

大森駅周辺地区は、明治9年の大森駅開業を契機に、線路の東西でそれぞれ異なる個性のもとに発展してきました。その魅力ある個性は、大森の地形的な特徴と固有の歴史・文化などを背景に、長い年月をかけて形成されてきたものです。しかし一方で、時代の進展とともに、駅前空間の機能充実や老朽化した建物の更新、駅東西の連絡通路の整備、放置自転車対策、商業活性化、豊かな緑の維持・充実など、大森は数多くの課題を抱えるようになりました。さらに、平成22年10月には羽田空港の再国際化を迎え、羽田空港・臨海部地域と連携した、商業・業務や観光を含むまちの再構築と活性化が求められています。

以上のような大森の個性と周辺環境の変化、解決すべき問題点を踏まえ、新しい時代の
大森の魅力増進と機能向上を図り、まちの更なる発展を将来へ継承していかなければなりません。大森駅周辺地区グランドデザインは、地域住民・団体の方々、事業者、行政が一緒になって、その大きな課題に取り組んでいくための羅針盤となる将来構想です。

グランドデザイン策定にあたり、意見交換会やパブリックコメント（区民意見公募手続き）などを通じて、数多くの貴重なご意見・ご提案をお寄せいただいた地域住民・団体の皆様、区議会の皆様、そして専門的な見地からお力添えをいただいた学識者検討委員会の皆様にあらためて心より感謝を申し上げます。

今後は、グランドデザインの着実な実現へ向けて、引き続き地域の皆様とともに取り組んでまいりたいと考えております。よろしくご理解とご協力のほどお願いいたします。

平成23年3月

大 田 区 長

目次

第1章 グランドデザイン策定にあたって

- 1. グランドデザイン策定の背景 1
- 2. グランドデザイン策定の目的 2
- 3. グランドデザイン策定のエリア 3
- 4. グランドデザインの位置付け 4

第2章 大森駅周辺地区の現況と特徴

- 1. 大森駅周辺地区の現況 5
- 2. 大森駅周辺地区の特徴 8

第3章 まちの将来像とまちづくりの基本方針

- 1. まちの将来像 13
- 2. まちづくりの基本方針 15

第4章 まちづくりの目標

- 1. まちづくりの目標の基本的考え方 16
- 2. 「浜風があるにぎわいエリア」におけるまちづくりの目標 17
- 3. 「文化がある緑のエリア」におけるまちづくりの目標 19

第5章 アクションプラン

- 1. アクションプランの構成 20
- 2. 「浜風があるにぎわいエリア」におけるアクションプラン 21
- 3. 「文化がある緑のエリア」におけるアクションプラン 36

第6章 グランドデザインの実現に向けて

- 1. 地域住民・事業者・行政の協働によるまちづくりの推進 45
- 2. アクションプランの実施手順 47

- 参考 51

第1章 グランドデザイン策定にあたって

1. グランドデザイン策定の背景

◎大森の海苔文化が息づくにぎわいと憩いの大森駅東側

大森駅をはさんで東側の地域は、鉄道が敷設されるまで、沼や沢に水鳥や小動物が集まる田園地帯でした。明治9年の大森駅開業を契機に、田畑は住宅地になり、その後は工業地、商業地としても発展してきました。

また、江戸時代より沿岸部では海苔の養殖が盛んで、浅草海苔の供給地となり、海苔の名産地として大森は全国に知られるようになりました。そして、現在においても、海苔の卸売業によって海苔文化が受け継がれています。近年では、大森駅東側の臨海部は、浜風のある海辺を再現する「大森ふるさとの浜辺公園」や「大森 海苔のふるさと館」などが整備され、海苔文化を継承する憩いの空間としても親しまれるようになりました。

◎大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化遺産が息づく大森駅西側

山王から馬込にかけての一带は、大正以降、多くの文人や芸術家が居を構え、創作活動を行ったことから馬込文士村と呼ばれ、居住地・別荘地として人気を集めてきました。現在も、文士ゆかりの貴重な資料を展示する資料館や旧居跡等があり、大田区の歴史・文化を特徴づける地域となっています。また、日本考古学発祥の地である大森貝塚などの史跡も存在し、大森駅がこれらのアクセス拠点となっています。

◎大森を取り巻く状況の変化

都市形成については、駅東口では、戦災復興土地区画整理事業が行われ、昭和59年には駅ビルが完成し、中心商業地として発展してきましたが、事業完了後約40年が経過した駅周辺の建物は更新時期を迎えています。また、駅西口では、池上通りに沿って路線型の商店街が連なっています。

一方、羽田空港の再拡張・国際化に伴い、大森駅周辺地区は蒲田駅周辺地区、羽田空港・臨海部とともに、区の重要な拠点としての役割が、今まで以上に大きなものになっていきます。また、品川、大井町、川崎など近隣のまちの再構築・活性化や将来の発展が期待される臨海部の整備など、大森を取り巻く状況が大きく変化してきています。

大森駅周辺地区は、こうした歴史・文化や周辺状況の変化を背景に、まちの魅力と機能向上を図っていくことが求められています。



大森の歴史と文化を象徴する馬込文士村



大森貝塚の石碑



まちの中心 大森駅



人工の砂浜が広がる大森ふるさとの浜辺公園



再拡張・国際化を迎えた羽田空港

2. グランドデザイン策定の目的

◎大森駅東西のまちの性格を活かした魅力の向上が重要

大森駅周辺地区は、地形的な要因、JR線による分断、市街地形成における歴史的な背景などから、東西で大きく性格が異なっています。そのため、この大森の個性である東西の顔と性格を踏まえたまちづくりを進めていくことが必要になります。

今後のまちづくりにおいては、それぞれの地域の特徴を活かしながら、ハード・ソフトの両面で地域連携の強化を図り、大森のまち全体の魅力を更に高めていくことが重要です。

◎グランドデザイン策定の目的

大森駅東西の特徴やまちの課題、周辺状況の変化に対応しながら、地域住民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくため、まちの将来像、基本的な方針・目標、実現に向けた方策を示す、グランドデザインを策定することとしました。

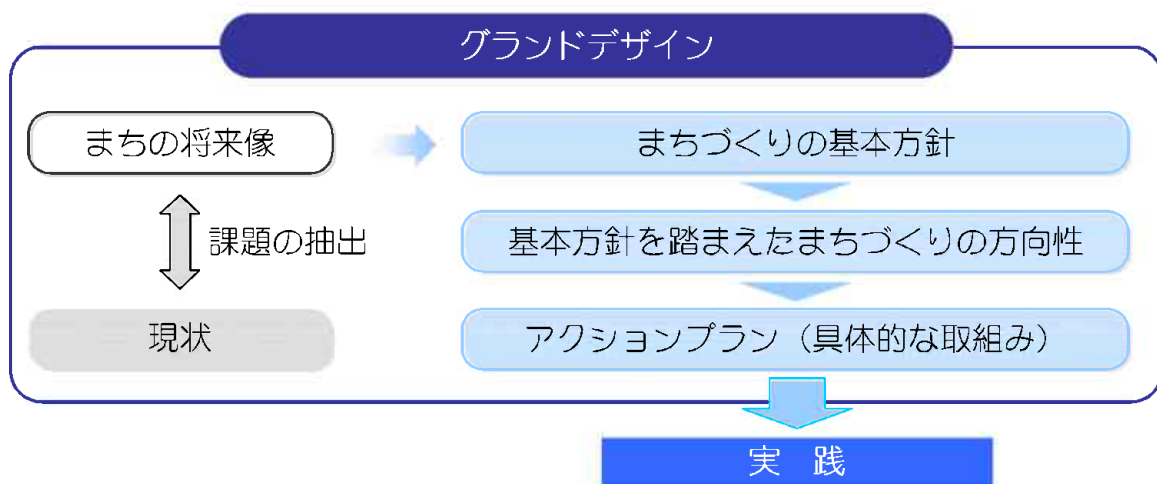
まちづくりは、都市計画や産業、観光、地域福祉、環境保全、文化など幅広い分野にわたります。グランドデザインでは、こうした分野での大森駅東西のまちの個性を考慮して特徴を捉え、課題を整理した上で、そこからイメージされるまちの将来像を描きます。この将来像実現に向けての基本方針と目標を定め、アクションプラン（具体的な取組み）とそれに取り組むための仕組みを整理していきます。

この取組みによって、大森駅周辺地区が将来にわたって持続可能な発展を目指していくことが、グランドデザイン策定の目的となっています。

グランドデザインとは

グランドデザインとは、総合的・長期的視点でまちの将来像を掲げ、これを実現させるまちづくりの方針に基づいた取組みを示したものです。

まちづくりは、行政だけで進められるものではなく、地域住民や事業者と協働して取り組むことが必要です。グランドデザインは、地域住民・事業者・行政のそれぞれの役割や、どのように協働しながら取り組むかといった方向性を示す役割も担っています。



3. グランドデザイン策定のエリア

大森駅周辺地区は、JR線を境に大きくまちの特徴が異なります。大森駅東側では、臨海部まで平坦な土地となっており、暮らしを支える繁華街を中心に、発展してきました。一方で、大森駅西側は、起伏に富んだ地形を有しており、豊かな緑と良好な居住地が形成されています。

市街地形成の歴史と現在の土地利用状況等を考慮し、大森駅周辺地区グランドデザインでは、大森駅から約1kmの範囲内に、「浜風かあるにぎわいエリア」及び「文化かある緑のエリア」を対象エリアとして位置付けます。ただし、臨海部周辺や駅西側の歴史・文化施設などにも配慮しながら、まちづくりを考えていくこととします。

また、隣接する品川区と連携したグランドデザインを考え、更なる魅力向上を図ります。

※浜風かあるにぎわいエリアの品川区部分は、現在、品川区で位置づけを検討中。



文化かある緑のエリア

- ◎文士や芸術家が交流していた歴史・文化資源
- ◎緑豊かで起伏に富んだ閑静な居住地

浜風かあるにぎわいエリアの特徴

- ◎周辺居住地の暮らしを支える駅前の繁華街
- ◎商業・業務・公益施設等の都市機能が集積

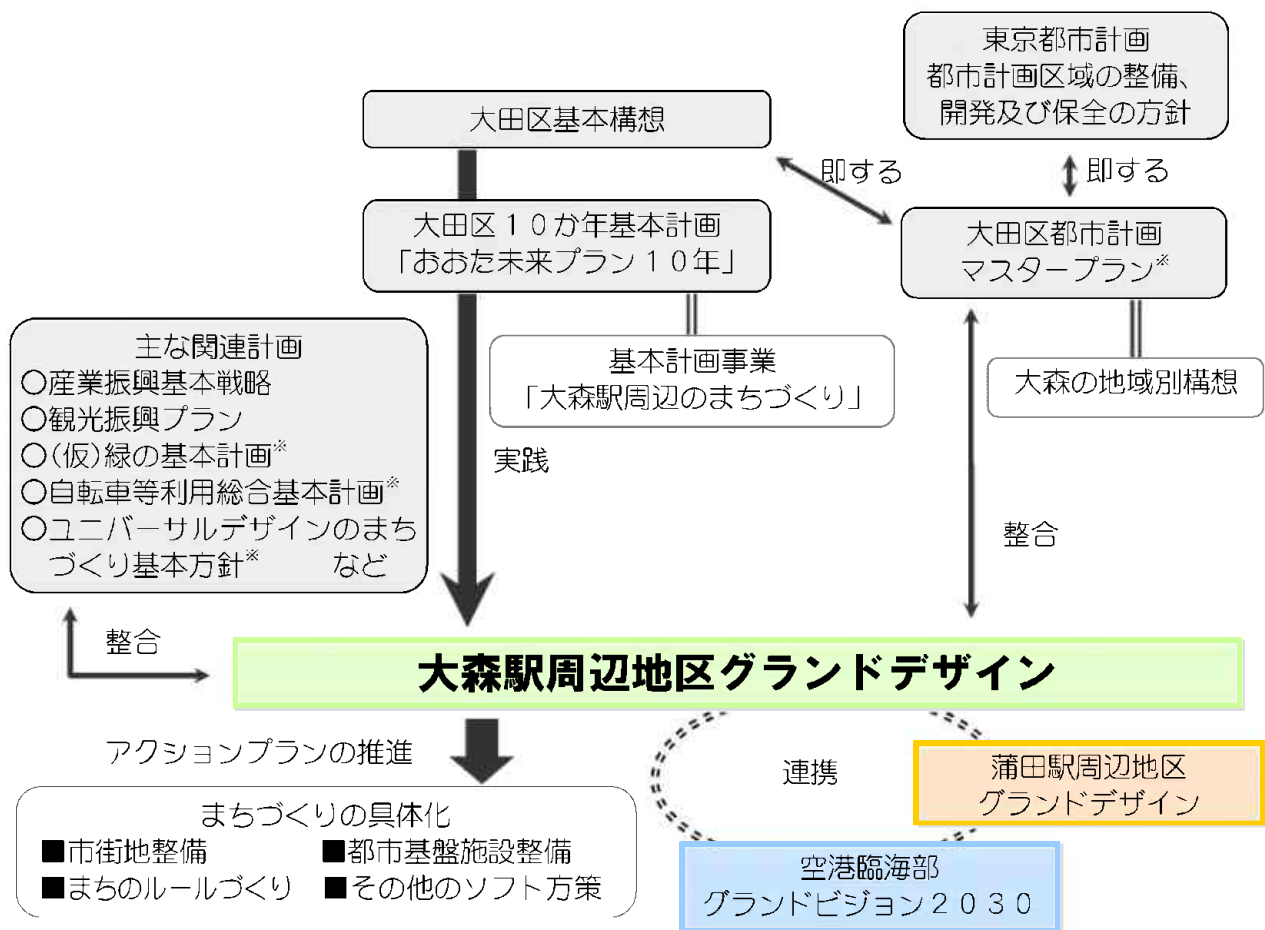
臨海部の特徴

- ◎大森海苔や旧東海道の歴史・文化
- ◎集客施設・レクリエーション施設・公園の集積

4. グランドデザインの位置付け

平成20年10月に大田区基本構想が区議会において議決されました。そして、この基本構想を実現するための具体的な施策を体系的にまとめた大田区10か年基本計画「おおた未来プラン10年」において、大森駅周辺地区は、蒲田駅周辺地区及び羽田空港・臨海部とともに、大田区を中心拠点に位置付けられています。「大森駅周辺地区グランドデザイン」は、おおた未来プラン10年の基本計画事業である「大森駅周辺のまちづくり」を推進していくための将来構想になります。

また、区内全体の都市計画分野の基本計画である「大田区都市計画マスタープラン」においても、大森地域では、「住環境と産業が調和した、歴史と文化のかおりたどよう中心拠点としてのまち」が将来像として位置付けられています。そして大森駅周辺地区グランドデザインは、このマスタープランの大森の地域別構想と整合します。



*現在策定中または改定中の計画

第2章 大森駅周辺地区の現況と特徴

1. 大森駅周辺地区の現況

明治9年の大森駅開業を契機に発展してきた大森駅周辺地区は、JR線が台地部と平地部の境界を通ったことから、線路の東西で性格が大きく異なっています。ここでは、大森駅周辺地区の全体像をつかむため、「浜風かおるにぎわいエリア」と「文化かおる緑のエリア」の現況を整理します。

(1)「浜風かおるにぎわいエリア」の現況

「浜風かおるにぎわいエリア」の駅東側は、臨海部まで続く広がりのある平坦な土地となっており、震災復興土地区画整理事業による都市基盤の整備を契機に、周辺居住地の暮らしを支える駅前の繁華街を中心として、商業・業務・公益施設等の都市機能が集積し、居住地の広がりとともに発展してきました。

大森駅東口 ………



また、同エリアの駅西側は、台地部と鉄道に挟まれるように池上通り（都市計画道路補助28号線）が南北に通じ、交通の要となっています。この沿道には、商店街が長く続く路線型商店街が形成されています。

大森駅西口 ………

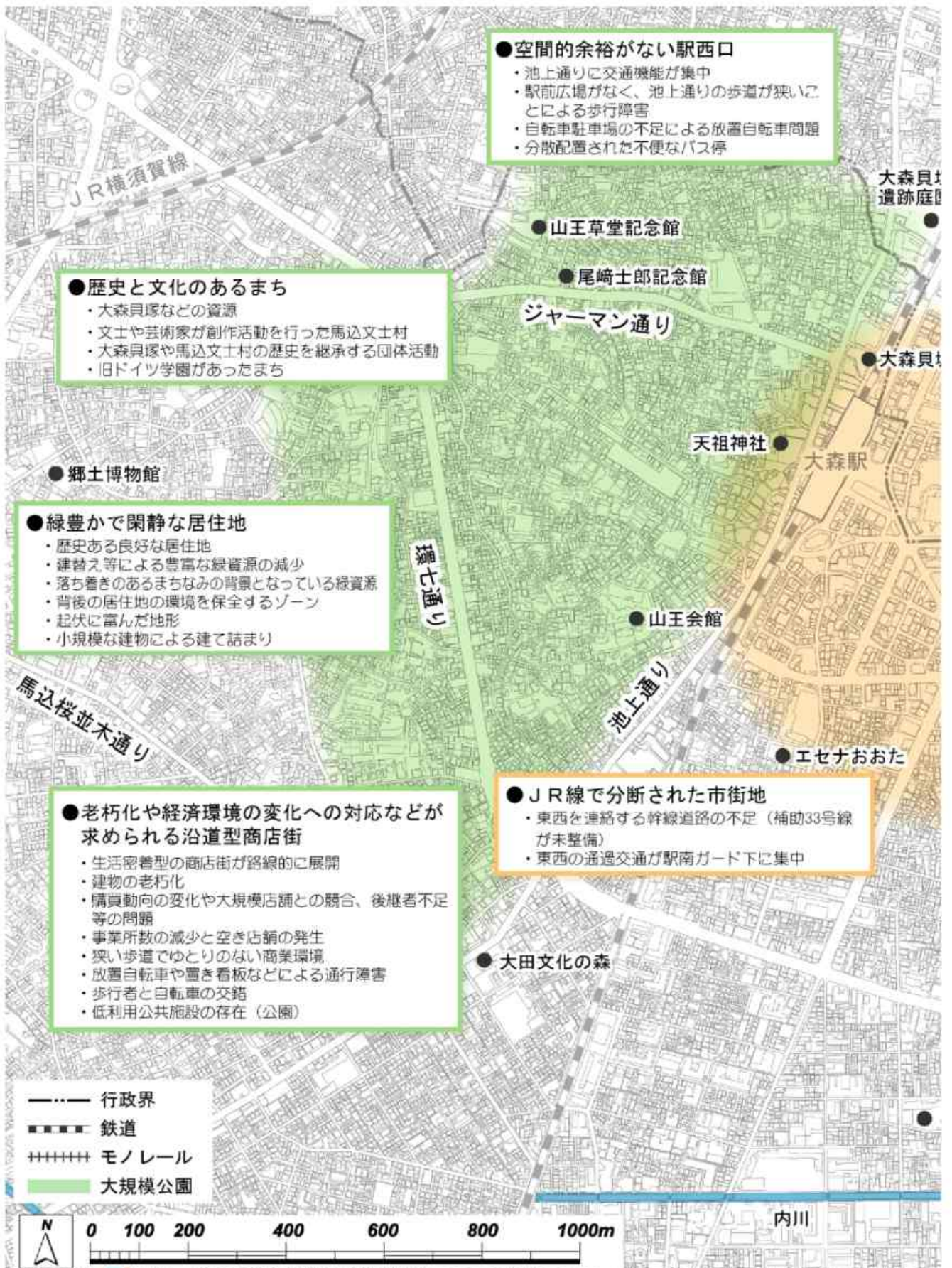


(2)「文化かおる緑のエリア」の現況

「文化かおる緑のエリア」は、起伏に富んだ地形を有しており、駅に隣接した利便性の良さと豊かな自然環境を備えた居住地が形成されています。また、大森貝塚や馬込文士村をはじめとした歴史・文化資源にも富んだエリアとなっています。



大森駅周辺地区の現況





●機能更新が必要な都市基盤

- ・自転車駐車場の不足による放置自転車問題
- ・一部の歩行者空間がバリアフリー化に未対応

●機能充実が求められる駅・駅前広場

- ・タクシープールや一般送迎機能の不足
- ・バリアフリーに対応していない東西連絡通路
- ・観光情報案内の不足
- ・地域イベント等での駅前広場の利用

●面的に広がった限界性の高い商店街

- ・生活密着型の商店街が面的に展開
- ・個性的な店舗・飲食店街の集積
- ・購買動向の変化や大規模店舗との競合、後継者不足等の問題
- ・放置自転車や置き看板などによる通行障害

●生活利便性の高い居住地

- ・交通利便性の高さ
- ・徒歩圏に公共公益機能が充実
- ・隣接する商業地区

大森駅周辺地区の特徴のまとめと課題の整理

4つの視点	まちの強み	まちの弱み
商業・ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 恵まれたビジネス環境 ■ 個性的な商店街、商店、飲食店 ■ 居住地に囲まれた商業地 ■ 職住バランスがとれたまち 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商店数や販売額の減少 ■ 商店街のにぎわい不足 ■ 商店街のつながりの希薄化 ■ 不十分なおもてなし環境
文化・歴史・観光	<ul style="list-style-type: none"> ■ 臨海部の集客施設の存在 ■ 山王の歴史・文化資源の存在 ■ 文化的なイメージ ■ 地域のサポート態勢や文化活動 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域資源間を回遊させる仕組みの弱さ ■ 情報案内の不足 ■ 歴史・文化の雰囲気十分に感じられない駅前
くらしのまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活利便性の高い居住地 ■ 地形が生み出す特徴的な景観 ■ 緑豊かで閑静な居住地 ■ まちづくりに積極的な地域活動団体の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅東側の緑化不足 ■ 駅西側の減少している緑資源 ■ 統一感・魅力に欠けるまちなみ ■ 交通安全面での不安
都市基盤・交通・土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅東口の整理された都市基盤 ■ 広域にわたるバス路線網 ■ 乗客員数の多い大森駅 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東口駅前広場の通行動線の交錯 ■ 空港臨海部への不便なアクセス ■ 空間的な余裕のない駅西口 ■ 建替え更新や高度利用が困難な土地利用 ■ 都市計画道路の未着手 ■ 不十分な自転車利用環境 ■ ユニバーサルデザインに対応した駅周辺の歩行環境が不十分

<大森駅周辺地区の課題の整理>

臨海部と連携したにぎわいの創出

利便性・安全性・快適性の向上

交通結節点としての都市基盤の充実

歴史・文化・まちづくりの継承と活用

良好な居住地の形成・保全

ユニバーサルデザインの推進

第3章 まちの将来像とまちづくりの基本方針

1. まちの将来像

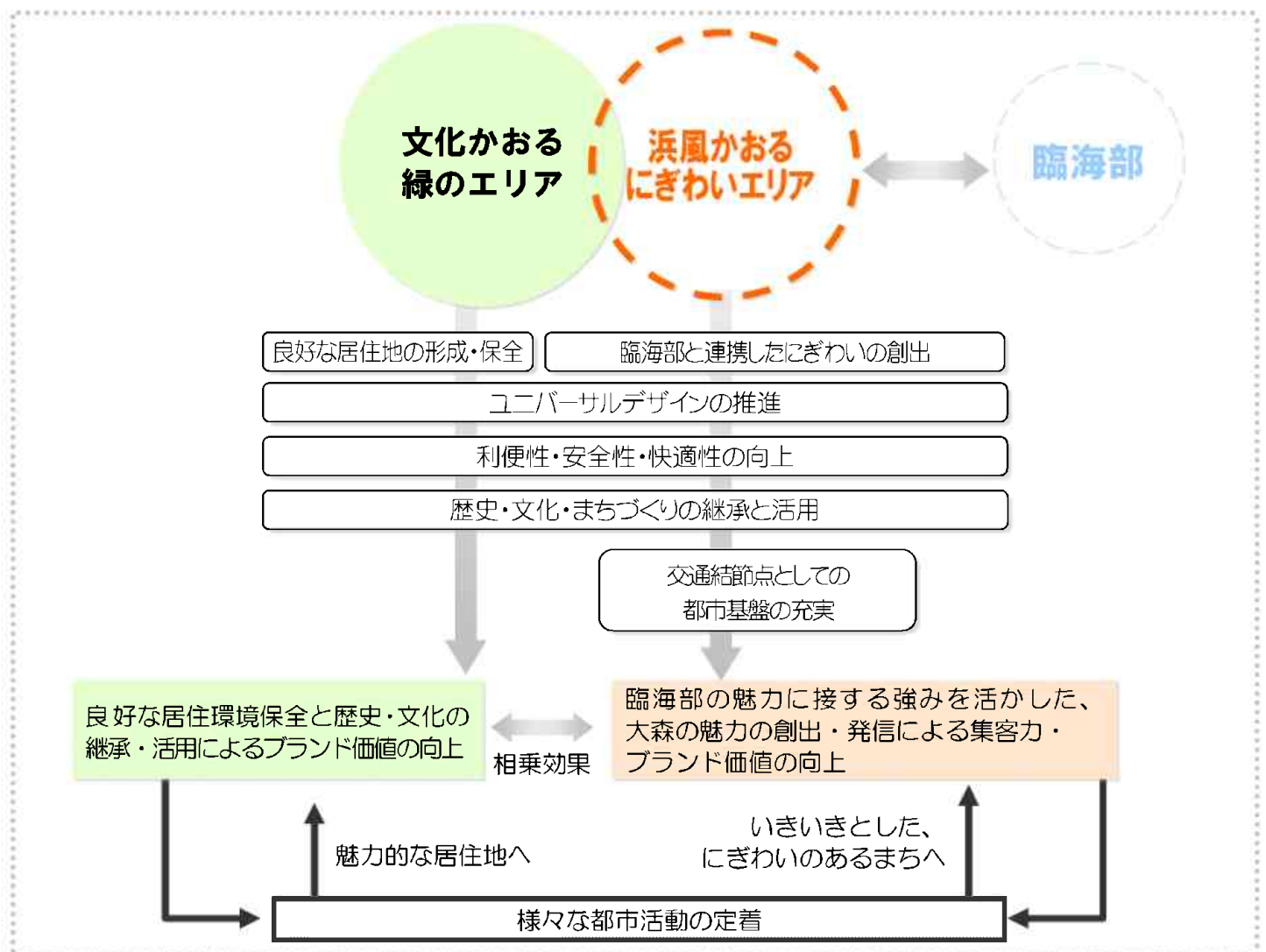
前章で整理した大森駅周辺地区の現況や特徴（強み・弱み）のまとめと課題の整理、大田区都市計画マスタープラン等に示されるまちづくりの方針等を踏まえ、大森駅周辺地区の地域ブランドの価値向上と活性化の循環を検討します。

まちの魅力が増すことで地域ブランド価値が向上し、人が集まり交流・滞在し、あるいは居住者が増えることで、商業・文化・生活などの様々な都市活動が定着し、都市の魅力が向上する循環づくりを目指します。

浜風があるにぎわいエリアにおける「臨海部の魅力に接する強みを活かした、大森の魅力の創出・発信による集客力・ブランド価値の向上」と文化がある緑のエリアにおける「良好な居住環境保全と歴史・文化の継承・活用によるブランド価値の向上」との相乗効果により、大森駅周辺地区の活性化と魅力の向上につなげていきます。

このような取組みにより、浜風があるにぎわいエリアは「いきいきとした、にぎわいのあるまち」に、文化がある緑のエリアは「魅力的な居住地」になることを目指します。

<課題解決に向けた「ブランド価値向上と活性化の循環」>

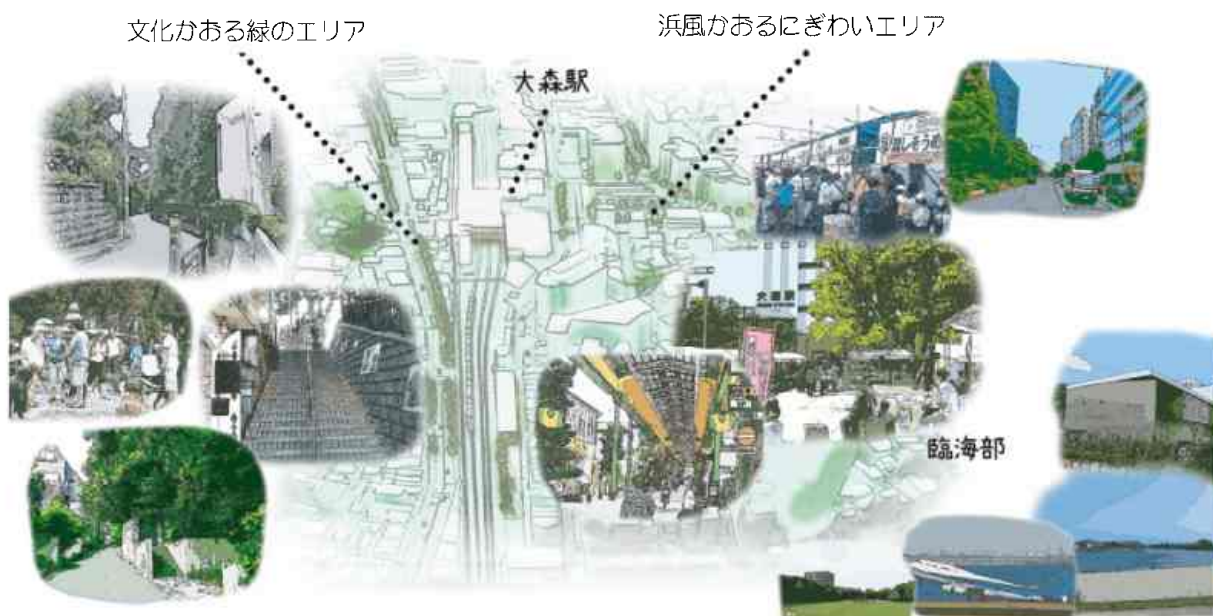


■まちの将来像

大森駅周辺の現状や課題、大田区都市計画マスタープラン等における位置付け、大森のブランド価値の向上などから、目指すべきまちの将来像を以下のように設定しました。

歴史と文化と浜風がおる いきいきとした心地よい「大森」

【イメージカラー】



大森駅周辺の将来の姿

大森駅の東西に、それぞれ個性的な魅力あるまちが広がっています。東側は、国際化した羽田空港や臨海部との往来が盛んで、世界につながる空や海の雰囲気を感じられます。そして、上質なサービスや商品を提供する商店街には多くの人々が集い、周辺は利便性の極めて高い居住地・業務地としても人気を集めています。

一方西側は、落ち着いた美しい緑が印象的で、大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化が息づく品格あるまちなみを形成しています。また、そこに住む人々の健康や暮らしを身近な商店街が支え、安心できる地域コミュニティが育まれています。

このような個性的で魅力ある東西のまちが交流することで、多様な人々が集い、大森の新たな魅力を生み出しています。そして、地域住民、事業者、行政が協力し、いきいきとした心地よいまちを将来に継承していく活動が活発に行われ、大森に住んでみたい、大森で事業に取組みたいという新しい風を受け入れながら、大森は着実に発展を続けています。

2. まちづくりの基本方針

まちの将来像実現に向けた取組みを進めていく上で必要となる、まちづくりの基本方針を定めます。「歴史と文化と浜風がある いきいきとした心地よい『大森』」というまちの将来像に基づき、エリアごとにまちづくりの基本方針を以下のように設定します。

「浜風かおるにぎわいエリア」のまちづくりの基本方針 居住者・事業者・来訪者がいきいきとしたまちの形成

- まちなかや臨海部等とのアクセス性を高め、大森海苔や旧東海道の歴史・文化、臨海部の集客施設、大規模公園などを活かし、まちなかへの集客力を高めます。
- 活発な商業活動やイベントの開催、住民主体のまちづくりを進め、地域力を高めながらまちを盛り上げていきます。
- 交通利便性や安全性の高い都市基盤の強化を行い、大森駅周辺の魅力を底上げします。特に大森駅東口は、臨海部や羽田空港への交通の起点としての機能充実を図ります。
- 駅周辺の基盤整備等により駅の東西をつなぐことで、人々が行き交い、交流し、東西のまちの魅力が融合した新たな大森の魅力を生み出します。



「文化かある緑のエリア」のまちづくりの基本方針 歴史・文化を未来へつなぐ、魅力的な居住地の形成

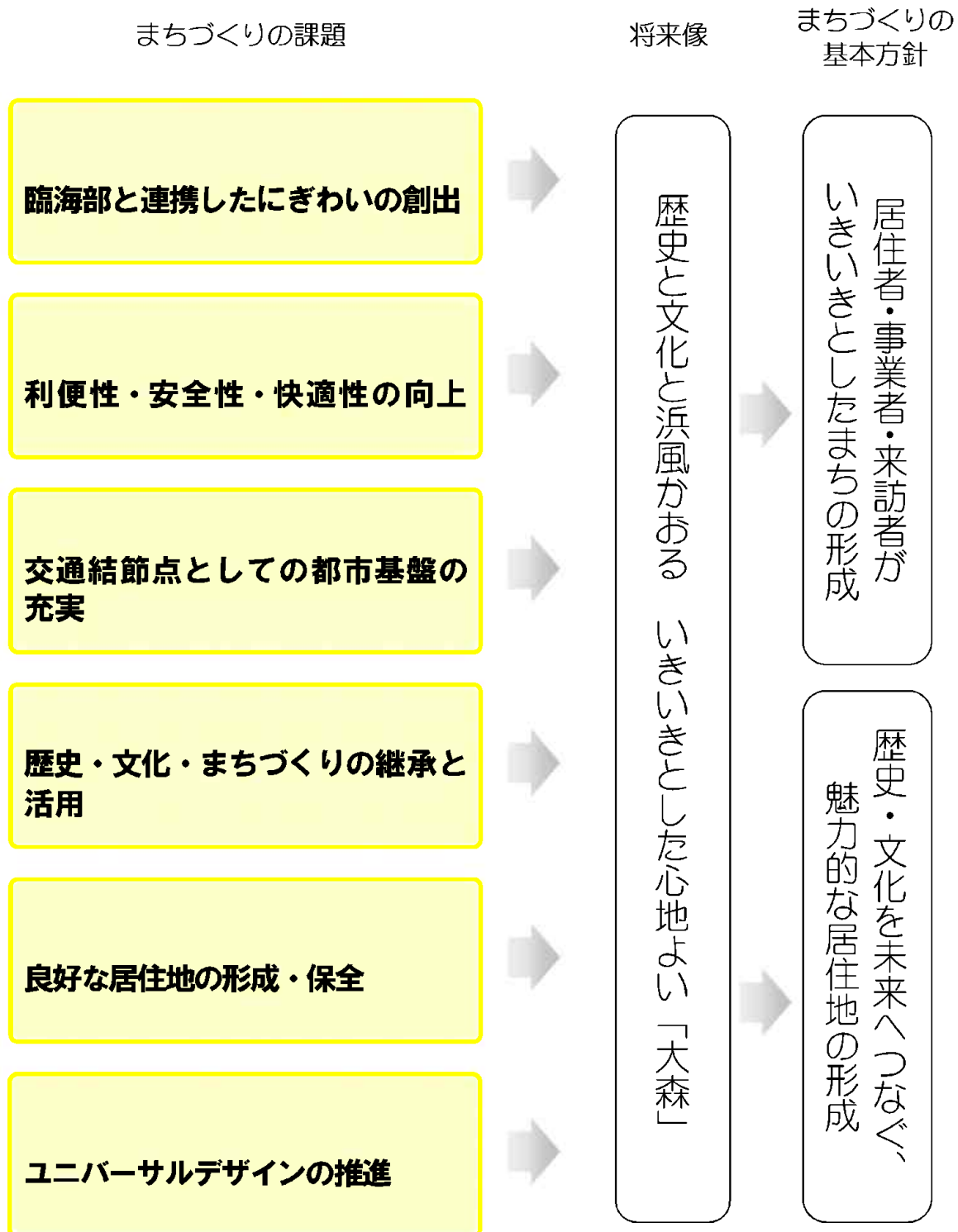
- 大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化を継承・活用し、ブランド価値の向上を目指します。
- 身近な商店街の活性化や生活サービスの向上、起伏に富んだ地形を気軽に移動できる取組みなど生活利便性の向上を図ります。
- 地域住民が主体となって、緑の保全やまちづくりルールの策定に取組み、防災や防犯の意識が高く安心できるまちを目指し、住み続けたいと感じる魅力的な居住地を形成します。

第4章 まちづくりの目標

1. まちづくりの目標の基本的考え方

まちづくりの目標は、「まちの将来像」や「まちづくりの基本方針」を実現するために掲げる個別目標であり、地域住民、事業者、行政が協働して達成を目指す目標です。

第2章のまちづくりの課題や第3章の内容を踏まえ、地域の特徴から、「浜風があるにぎわいエリア」、「文化がある緑のエリア」に分けて、目標を設定しました。



2. 「浜風かおるにぎわいエリア」におけるまちづくりの目標

● 目標1 大森海苔や旧東海道などの歴史・文化、臨海部の施設の魅力発信

大森駅東側の臨海部は、大森海苔の産地として知られているとともに、旧東海道など、歴史・文化が残されている場所です。また、大森海苔のふるさと館や大森ふるさとの浜辺公園など、魅力的な施設や公園が整備されており、観光や憩いの空間として多くの来訪が期待されます。

そのため、歴史・文化・観光施設などの資源を活用しながら、ブランドづくりや魅力の発信、来訪者へのおもてなしの充実を図り、浜風かおるにぎわいエリアと臨海部との連携による集客増加も見据えた、来訪者が楽しめるまちを目指します。

● 目標2 活発な地域活動による地域力の向上

効果的で持続可能な地域のまちづくりを進めていくためには、行政の力だけでは不十分であり、地域住民や商店街、事業者、地域活動団体との連携が必要不可欠となります。特に、にぎわいを生み出す地域特有のまつりやイベントの開催などは、各主体の取組みが重要となります。

そのため、地域にかかわる各主体が力を合わせて、総合的な地域力の向上を目指します。

● 目標3 まちなかの回遊性と、臨海部や羽田空港へのアクセス利便性の向上

多くの集客施設がある臨海部の資源を活かし、来訪者が大森駅を起点として駅周辺部や臨海部を回遊することにより、まちなかや臨海部が活性化することが期待されます。しかし、臨海部や羽田空港へのバスの本数が少ないなど、アクセスがやや不便です。

そのため、容易に移動できる仕組みが求められ、特に大森駅東口周辺は、臨海部や羽田空港など、様々な場所を訪れることができるように、便利な交通機関の導入検討を行います。

また、駅周辺を中心に、安全で快適な歩行者空間を確保することで、だれもが利用しやすい歩いて回遊できるまちづくりを進めます。

● 目標4 快適・安全な自転車環境づくり

駅東側から臨海部にかけての平坦な地形や商業施設等の集積により、駅周辺は自転車が多く利用されています。しかし、自転車等駐車場の不足や利用マナーの悪さ、走行環境が整っていないなどの課題も多く、安全で気軽に移動できる自転車環境づくりが求められています。

そのため、自転車等駐車場の整備や地域を回遊しやすい自転車走行レーン整備とネットワークづくりを進めるとともに、自転車利用のルールづくりやマナー向上を行い、子どもや高齢者、障がい者なども安心して快適に移動できる環境づくりを目指します。

● 目標5 居住者や来訪者にとって魅力ある商店街づくり

浜風かあるにぎわいエリアの商店街には、駅に近く、多くの人々が利用する立地の優位性があるものの、商店や販売額の減少、にぎわいの不足、商店街や事業者間のつながりの希薄化などの課題があります。

そのため、各主体の連携により、商店の経営向上や人材の育成、空き店舗の活用に取り組み、居住者や来訪者のニーズに応える元気な商店街づくりを進めます。

● 目標6 住居・商業・業務が調和・共存した市街地の形成

商業・医療施設などが充実した浜風かあるにぎわいエリアは、便利な住宅地となっていますが、広告物や路上放置物、統一感のないまちなみ、騒音、ごみ問題、防犯ニーズの高まりなど、内在する課題が少なくありません。

そのため、地域住民、自治会・町会、商店街、事業者、行政などが連携して、建物の建て方や敷地の使い方、景観づくりのルールを検討するとともに、マナー向上への呼びかけや、防犯対策などを行い、安全で魅力的な市街地を目指します。

● 目標7 大森駅周辺の都市基盤の充実と機能強化

羽田空港の国際化に伴う交通量や来訪者の増加が想定され、より一層、利便性の高い、魅力あるまちづくりが求められます。しかし、駅東口は、車両と歩行者動線の交錯や客待ちタクシーの列の課題や、駅西口では、駅前空間、池上通り拡幅の未整備、バス・タクシーの停車に起因する交通渋滞や歩行者の通行障害が発生しています。

そのため、駅東口は、交通安全性の確保やまちの回遊性の向上を図るとともに、まちなかや臨海部、羽田空港への広域交通拠点となるため、利便性の高い交通結節点づくりなど、駅前広場の機能強化を目指します。駅西口は、周辺の住環境に配慮しながら、池上通りの拡幅整備と連携した再開発や建物の共同化等を進め、ゆとりある駅前空間づくりを目指します。また、駅東西の人々の往来を促進するため、利便性の高い東西自由通路の確保を目指していきます。

3. 「文化かおる緑のエリア」におけるまちづくりの目標

● 目標 8 区民(地域)活動団体と行政が連携した、大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化の継承・発信

駅西側は、大森貝塚や馬込文士村、山王会館、郷土博物館などの歴史資源や文化施設に富んだ地域です。その魅力を区内外へ発信し、気軽に散策できるルートづくり、地域ガイドの養成、未来のまちづくりを担う子どもたちへの教育、地域活動団体の活動サポートなどを行い、歴史・文化を継承、発信できるまちづくりを進めます。

● 目標 9 山王の地域特性を活かした住み続けたいまちの維持・充実

起伏があり、緑資源の広がる山王地区は、独特の景観を漂わせる区有数の良好な住宅地ですが、土地の細分化による緑資源の減少などへの対策や、太陽エネルギー等を活用し、地球環境に配慮した質の高い住宅地の形成が求められています。

そのため、地区計画などのルールづくりや地域住民による緑化や美化活動のほか、省エネ設備の利用など低炭素のまちづくりへの取組みにより、いつまでも住み続けたいような、誇りの持てる住宅地の形成を目指します。

また、高齢化の進展にも対応した、移動等が容易な環境づくりに向けて、コミュニティバスなどの利便性の高い交通機関を検討するなど、だれもが暮らしやすいまちとなるよう、地域住民や区などが連携した取組みを進めます。

● 目標 10 安全・安心な住宅地の形成

起伏に富んだ、文化かある緑のエリアでは、特に池上通りの西側において狭い道路が走り、交通手段も限られていることから、往来するのが不便な状況にあります。また、安心して住むことができるよう、火災やがけ崩れなどの防災対策や犯罪に強いまちづくりを進めていくことが重要となります。

そのため、老朽建物の建替えや急傾斜地の安全確保を図るとともに、地域住民と自治会・町会が主体となった防災・防犯活動の強化などを進め、防災・防犯に対する地域の意識の向上を目指します。

● 目標 11 住宅地と調和した身近な商店街づくり

線状に商店街が広がる駅西口は、住宅地の身近な商店街として発展してきました。しかし近年は、大規模店舗との競合や後継者不足などから売り上げも年々減少しています。

そのため、個性のある商店づくりや商店街同士が連携したイベントの実施、医療機関と連携した健康相談や宅配など住民の健康や暮らしを支える身近なサービスの充実を図ります。また、だれもが買物に来やすいよう、自転車等駐車場や快適な歩行空間を確保します。